

2026/03/08

マルコ8:1-10 「小魚もあった♪」

主題：小さな私をあえて用いてくださるイエス様。

Mark 8:1 ¶ Ἐν ἐκείναις ταῖς ἡμέραις πάλιν πολλοῦ ὄχλου ὄντος καὶ μὴ ἔχόντων τί φάγωσιν, προσκαλεσάμενος τοὺς μαθητὰς λέγει αὐτοῖς·

Mark 8:2 σπλαγχνίζομαι ἐπὶ τὸν ὄχλον, ὅτι ἤδη ἡμέραι τρεῖς προσμένουσίν μοι καὶ οὐκ ἔχουσιν τί φάγωσιν·

Mark 8:3 καὶ ἐὰν ἀπολύσω αὐτοὺς νήστευσι εἰς οἶκον αὐτῶν, ἐκλυθήσονται ἐν τῇ ὁδῷ· καὶ τινες αὐτῶν ἀπὸ μακρόθεν ἤκασιν.

Mark 8:4 καὶ ἀπεκρίθησαν αὐτῷ οἱ μαθηταὶ αὐτοῦ ὅτι πόθεν τούτους δυνήσεται τις ὧδε χορτάσαι ἄρτων ἐπ' ἐρημίας;

Mark 8:5 καὶ ἠρώτα αὐτούς· πόσους ἔχετε ἄρτους; οἱ δὲ εἶπαν· ἑπτὰ.

Mark 8:6 καὶ παραγγέλλει τῷ ὄχλῳ ἀναπεσεῖν ἐπὶ τῆς γῆς· καὶ λαβὼν τοὺς ἑπτὰ ἄρτους εὐχαριστήσας ἔκλασεν καὶ ἐδίδου τοῖς μαθηταῖς αὐτοῦ ἵνα παρατιθῶσιν, καὶ παρέθηκαν τῷ ὄχλῳ.

Mark 8:7 καὶ εἶχον ἰχθύδια ὀλίγα· καὶ εὐλόγησας αὐτὰ εἶπεν καὶ ταῦτα παρατιθέναι.

Mark 8:8 καὶ ἔφαγον καὶ ἐχορτάσθησαν, καὶ ἦσαν περισσεύματα κλασμάτων ἑπτὰ σπυρίδας.

Mark 8:9 ἦσαν δὲ ὡς τετρακισχίλιοι. καὶ ἀπέλυσεν αὐτούς.

Mark 8:10 ¶ Καὶ εὐθὺς ἐμβὰς εἰς τὸ πλοῖον μετὰ τῶν μαθητῶν αὐτοῦ ἦλθεν εἰς τὰ μέρη Δαλμανουθά.

Mark 8:1 そのころ、再び大勢の群衆が集まっていた。食べる物がなかったの、イエスは弟子たちを呼んで言われた。

Mark 8:2 「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。

Mark 8:3 空腹のまま家に帰させたら、途中で動けなくなります。遠くから来ている人もいます。」

Mark 8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れたところで、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができるでしょう。」

Mark 8:5 すると、イエスはお尋ねになった。「パンはいくつありますか。」弟子たちは「七つあります」と答えた。

Mark 8:6 すると、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。それから七つのパンを取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、配るようにと弟子たちにお与えになった。弟子たちはそれを群衆に配った。

Mark 8:7 また、小魚が少しあったので、それについて神をほめたたえてから、これも配るように言われた。

Mark 8:8 群衆は食べて満腹した。そして余りのパン切れを取り集めると、七つのかごになった。

Mark 8:9 そこには、およそ四千人の人々がいた。それからイエスは彼らを解散させ、

Mark 8:10 すぐに弟子たちとともに舟に乗り、ダルマヌタ地方に行かれた。

またこのパターン！

卒業のシーズンですね。皆さんには恩師と呼べる人がいらっしゃるでしょうか。

幸せなことに、私達には最高の師匠がいますね。しかも同じ一人の先生の弟子です。イエス様ですね。

イエス様は、今日の箇所でも弟子たちを愛をもって、そして責任をもって育てています。

ただ、弟子たちからすると、今日の箇所はなかなかの特訓です。

Mark 8:1 そのころ、再び大勢の群衆が集まっていた。食べる物がなかったので、イエスは弟子たちを呼んで言われた。

Mark 8:2 「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。

Mark 8:3 空腹のまま家に帰させたら、途中で動けなくなりま
す。遠くから来ている人もいます。」

今まで一緒にマルコを読んで来られた方は、「おっと、またこのパターンか」と思われたことでしょう。弟子たちもきっとそう思ったでしょう。

お腹を空かせた大群衆。そして、イエス様からどうしようか、という相談。

このパターンは前もありましたね。イエス様はあえて、同じ状況を作られています。前回で学んだ成果を發揮して欲しいからです。

➤ イエス様という方は、私達をこうやって丁寧に、しかも確実に育ててくださる方です。何のために育てるかという、私達に平安の中で、喜びの多い歩みをさせるためです。結局は愛です。

ここで、弟子たちが「お！前やったパターンだ。よし、今度はイエス様に信頼しよう。どぞ、このパンを使ってください！」となればよかったのですが、残念ながらそうはなりませんでした。

Mark 8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れたところで、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができるでしょう。」

こっちは、残念な方の「またこのパターンか・・・」です。信じきれない、信頼できない私達の弱さ、頑なさと重なりますね。

イエス様の忍耐はまだ続きます。申し訳ないことです。

変わらないあわれみ

それにしてもイエス様の愛の深さにはいつも驚かされます。

弟子たちに対する忍耐と愛育ももちろんですが、とにかく人々への情が深いのです。

Mark 8:2 「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。

このかわいそうと訳されていることばは、はらわたからの深いあわれみをあらわすことばです。

「心配でならない。なんとかせねば！！」ってまたしてもなっちゃっているのです。もう3日もこの人たちは私から離れずにいるけれど、食べ物を持ってないのだから、と。

弟子たちからすれば、それはもう自己責任ですよ！と言いたいところでしよう。というか、前の奇跡で味をしめて、またパンの奇跡があるんじゃないかと期待している連中もいますよ、とか思ったかもしれません。

でも、イエス様はどこまでも優しいのです。

Mark 8:3 空腹のまま家に帰させたら、途中で動けなくなりま
す。遠くから来ている人もいます。」

なんという慈しみでしょう。帰り道の心配までされているのです。口先だけの心配ではないのです。遠方から来てる人もいることを把握しています。全員が無事に家に着くようにしたいのです。

細やかで真実な愛。イエス様の変わらないあわれみがここにあります。私達を愛されるイエス様が、こんなお方であることを覚え、感謝しましょう。

そして、結論を言えば、イエス様はきちんと全員を満腹させてから送り出しています。

Mark 8:8 群衆は食べて満腹した。そして余りのパン切れを取り集めると、七つのかごになった。

Mark 8:9 そこには、およそ四千人の人々がいた。それからイエスは彼らを解散させ、

Mark 8:10 すぐに弟子たちとともに舟に乗り、ダルマヌタ地方に行かれた。

みんなニコニコ満足して、家路についたことでしょう。

また信頼できない の教育においこ

イエス様は弟子たち~~に対して~~、細かく配慮されています。

それは数字に表れています。前は5000人でした、そして今回は4000人です。

また、前はパンは五つしかありませんでした。今回はどうでしょう。彼らの手持ちのパンは7つです。前回より多いのです。

人数は前回より少なく、手持ちのパンは前回より多い。

前と同じパターンでありながら、微妙に前回よりも条件がゆるくなっているわけです。イエス様は「どう、いけると思わない？」と問われているのではないのでしょうか。

しかし、弟子たちはやっぱり信頼できない、信じきれないのです。

Mark 8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れたところで、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができるでしょう。」

Mark 8:5 すると、イエスはお尋ねになった。「パンはいくつありますか。」弟子たちは「七つあります」と答えた。

前回あれだけのみわざを見たのに。彼らも食べたのに。あまったパンが12かご。弟子たち一人ひとりのかごがいっぱいになったのに。

それでも彼らは、こんな荒野でパンを手に入れるなんて無理です。絶対不可能です、と宣言するのです。不信仰告白です。

これが私達人間の現実です。信じやすい状況を作っていただいても、過去に神様のみわざを体験する経験をしてもらっても、だから今回も大丈夫、ではなく、今回はダメに違いない、と思っちゃうのです。

でも、イエス様はそんな私達を見捨てません。愛を持って育てることを放棄せずに、教え続けてくださいます。

あえて増やすパターン

前回と同じ奇跡がここでも起きます。

Mark 8:6 すると、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。それから七つのパンを取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、配るようにと弟子たちにお与えになった。弟子たちはそれを群衆に配った。

前回多いとはいえ、たった7つしかないパン。なのに、イエス様は感謝の祈りをささげます。そして、割いて配るよう^どに弟子たちに渡されました。

本当に不思議な奇跡です。いったい何が起こったのでしょうか。パンを裂き、配る、パンを裂き、配る。その中でどんな現象を弟子たちは目撃したのでしょうか。

いつそのこと、せーのでどん！とパンの山を出現させたほうがわかりやすいと思うのです。

割いても割いても無くならずが増えていく7つのパン。どうしてこんな風変わりなやり方をイエス様はされるのでしょうか。

小魚も♪

さらに小魚が出てきます。

Mark 8:7 また、小魚が少しあったので、それについて神をほめたたえてから、これも配るように言われた。

小魚とあえて書かれています。小ささが強調されているのです。量もちょっぴりです。ちょっぴりの小魚。わずかなおかず。なのにイエス様は「それについて神をほめたたえた」と記されています。

おー小魚もあったか！これこれ♪と喜んでいるのです。天のお父さん、おかずですね。感謝です。みんなが喜びます！と。

なぜ、イエス様は小魚をこんなにも喜ばれるのでしょうか。大きな魚だって出現させられるでしょう。刺し身の盛り合わせだってなんだってできます。

でも、イエス様は弟子たちが持っているものをあえて活用されるのです。

そこにイエス様の思いがあります。

「わたしはあなたを用いたいんだ」ということです。

あなたが差し出すもの、それを私が用いる時、すべての必要は満たされるんだよ、と教えたいのです。

どうせ自分なんか役に立たない、と思うべきではないのです。私の持ち物なんてわずかなパンだ、ちょっぴりの小魚だ、こんなの出しても何の役にも立たん、なんて考えないでください。

イエス様が欲しいのは大きな立派な魚じゃないのです。上等なたっぷりのパンではありません。

私のささやかな愛と信頼。それを喜ばれるのです。私のわずかな小魚のようなささげもの。それを、おーこれこれ！！と大喜びでほめたたえ、豊かに、豊かに用いてくださるお方です。

小さな私を大胆に差し出そう

私はイエス様の愛の大きさを知って、私もこの方に自分をささげたいと思いました。でも、途中で不安になりました。イエス様の愛は思った以上に大きかったのです。

私の罪のために十字架に架かれた愛。その方に対して、私が差し出す愛は、見栄や高ぶりが入り混じった、不十分な愛、不純な愛のように思えました。

こんな愛を差し出して、何の役に立つのか。かえって失礼じゃないか、と引っ込めたくなったのです。

でも、イエス様は、その惨めな小さな愛を、それでも、これこれ、と喜んで抱きしめてくださり。びっくりするくらいに、豊かに使い続けてくださっています。

それが私達のイエス様です。

イエス様が弟子たちに、なんとかして教えたいこと。それは、どんなに小さく思えても、あなたを大胆に差し出せばいい、ということです。神様の愛のわざのために、あえて私達をチームに加えてくださるお方。

そして、喜びの結果を味わう生涯へと導いてくださる最高のコーチです。

前回のパンの残りは12のかごでした。

今回はどうだったでしょうか。

Mark 8:8 群衆は食べて満腹した。そして余りのパン切れを取り集めると、七つのかごになった。

あ、パンのあまりは前回よりは減ったんだな、と私は今まで思っていました。しかし、かごと訳されている原語が違うことを今回知りました。前回は弟子たちが持っていたと思われる旅行用の手籠でした。今回かごと訳されていることばは、それよりも遥かに大きなもので

あったよとす。

(4:25)

す。使徒の働きではパウロが、そのかごに入って城壁から吊り降ろされた、と記されています。ですから、数十リットルの大きなもの。1つのかごで手籠12個よりも大きなサイズのもののようです。

前回よりもはるかに多くのパンが残ったのです。ここにようになります。

イエス様は、二度目の奇跡で、前回にも増してこんなにも豊かに満ち溢れるよ。と示されているわけです。

私を信頼してごらん。自分を差し出してごらん。きっと大丈夫だから、と忍耐強く教えてください。

季節は春。いろいろな新しいことが起こるでしょう。別れもあり、出会いもあります。そんな中、失うことを恐れて縮こまるのではなく、周りを見て卑屈になるのでもなく、大胆に愛のために一歩を踏み出す私達でいたいと思うのです。

今、世の中では多くの方が愛に飢えています。イエス様は今日も明日も働かれます。そして、私達についておいで、と招いてくださっています。

Mark 8:1 そのころ、再び大勢の群衆が集まっていた。食べる物がなかったので、イエスは弟子たちを呼んで言われた。

Mark 8:2 「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。

Mark 8:3 空腹のまま家に帰させたら、途中で動けなくなります。遠くから来ている人もいます。」

Mark 8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れたところで、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができるでしょう。」

Mark 8:5 すると、イエスはお尋ねになった。「パンはいくつありますか。」弟子たちは「七つあります」と答えた。

Mark 8:6 すると、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。それから七つのパンを取り、感謝の祈りをささげてからそ

れを裂き、配るようと弟子たちにお与えになった。弟子たちはそれを群衆に配った。

Mark 8:7 また、小魚が少しあったので、それについて神をほめたたえてから、これも配るように言われた。

Mark 8:8 群衆は食べて満腹した。そして余りのパン切れを取り集めると、七つのかごになった。

祈り